

のびすく仙台 イベント報告



7/1(日)新米パパママ講座 「カメラ入門編」

講師:小畑 トモコさん(カメラマン)

会場の室温が高すぎるため、急きょ時間を短縮しての開催となりました。

上手に写真を撮るためのポイントを分かりやすく説明してもらい、講座終了後は、参加者が持参したカメラを手に講師に質問されている方が多くいらっしゃいました。

短い時間での開催になってしまったので、また次回開催を計画中です。お楽しみに。

7/29(日)パパ'Sクッキング 「夏の中華ランチ」 【共催】仙台市ガス局

あんかけ焼きそば、春巻き、ナムルにゼリーとボリューム満点のメニューに挑戦しました。ママたちは「パパがんばれ!」とエールを送り、料理づくりがスタート!手際も良く声をかけあいながら作る姿がありました。

無事にお料理が出来上がり、みんなで試食が始まると

「とっても美味しい!!」
「パパすごいねえ」など大満足、楽しい時間を過ごしていました。

ぜひお家でも作ってみてくださいね。



7/12(木)グループ相談「離乳食」

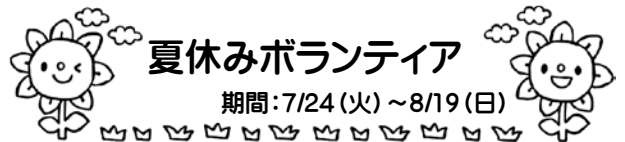
講師:佐藤 京子さん(管理栄養士)

10組が参加、講師のお話を一生懸命メモをとる姿もありました。

一人ひとりの質問に丁寧に答えていただき、「子どもの成長や発達などを大切に、1年かけて食感や味を覚え、楽しみながらおいしく食べられるような雰囲気作りを心がけましょう。」とのアドバイスがありました。

Q:食べるのがあまり好きではなく、食事がすすまず心配しています。

A:テレビを点けたままだったり、おもちゃを側に置いたりしていませんか?食事がすすまないときはしつこくしないことが大切です。20~30分で切り上げましょう。味を少し変えてみたり、塩分の調整をしてみても良いかもしれません。



専門学生、高校生のお姉さん、お兄さんたちがボランティアに入りました。最初は緊張していた様子でしたが、少しずつ慣れてくると自分から声をかけて子どもと楽しく遊ぶ姿もありました。

照れながらも、絵本の読み聞かせを頑張って挑戦したり、「子どもたちから自分の所に来てくれて嬉しかったです。」との感想もあり、学生たちにとっていい機会になったようです。

家族のかたち 「特別養子縁組編その3」

妊娠が困難とわかったとき、たくさん泣きました。そして血のつながりがなくても、わが子を迎えたい、必要がある命があるならば、その命と共に家族として生きていきたいと思いました。

日本で子どもと特別養子縁組で家族になる方法は2つ。地域の児童相談所を通じてまたは、仲介する民間団体を通じて迎える方法があります。ただし情報を集め、相談、研修などたくさんのステップがあり、時間もかかります。私の場合は実際に団体に登録してから1人目の委託があるまで4年経っていました。

女性が予期せぬ妊娠に悩み困難を抱えて、相談窓口につながり、子どものこと、自分のこれからのことを考え、悩み、そこには大きな葛藤があると思います。

育ての親にも生みの親にもそれぞれ事情がありますが「子どもに幸せになってほしい」という思いは、共通だと感じます。

子どもの遊び場づくりをしている3児の母親
佐々木啓子(すず)

参考図書:「産まなくても育てられます—不妊治療を越えて、特別養子縁組へ」
講談社 後藤絵里(仙台市内の各図書館にもあります)

